

「待合い風」 物置製作

テーマ： 庭の風情を壊さないような、庭の管理道具を入れる物置を

【図面作成】

利用できる廃材や一般に入手できる材料を考えイメージに合わせて素案を練ります。

ここでは桧材を主材に使用することにしました。

桧材を用いる場合はホームセンターでの寸法種類が少ないので、どのような材料が手に入りやすいかを下見しておきます。

イメージが決まったら材料の無駄が出ないことも考慮しながら図面化します。



完成写真

【基礎作り】

風あたりが強い場所では特に基礎を念入りに施工します。

ここでは、古い空洞ブロックと桧の廃材を利用して作成しました。

前トビラは付けないので、基礎はコの字方になります。

基礎部分を掘って、基礎碎石を敷きます。

ブロックを並べてモルタルで固定し、アンカーボルトを埋め込みます。

基礎材は耐久性を考え、防腐剤を塗布します。



出来上がった基礎部分

【木材の加工】

まずは骨組みの材木を買い集め。集めた材料に合わせ図面を修正します。

部材の切断・ほぞ組みの加工(キザミ)を行ないます。(ほぞ組加工にはドリルスタンドに電気ドリルを取り付け、角のみドリルで加工すると能率が上がり、綺麗に加工できます。)

【仮組み】

加工を終えると主要部分については一度平地で仮組みを行ってほぞ組などの確認を行ないます。

【棟上げ】

仮組みを終え、細部の調整が済むと、一気に棟上げです。柱と桁は防風対策のため羽子板ボルトで緊結します。



キザミを終えて仮組み



棟上げ



柱と小屋梁のほぞ組み



柱と桁を羽子板金具で緊結



小屋梁と桁のほぞ組み

【屋根部分の造作】

垂木は赤松で、野地板は桧材、屋根材は杉板を使用しています。

野地板は濡れた場合に早く乾くようにということと、天井が無いので下から見上げたときに見場が良いようにプレーナーをかけてきれいにします。屋根材の杉はプレーナーをかけた後、バーナーで焼いて焼き杉にします。

各材は吹きさらしになるので、木目の美しさを損なわないようにクリアーの防腐剤を塗布します。

棟木と桁に切り込みを入れ、垂木を取り付け、野地板を打ち付け、防水シートを張りタッカーで止めてゆきます。防水シートの上から焼き杉で作った屋根材を色付ステンレススクリュー釘で止めてゆきます。

屋根は大和葺き風に仕上げるため一層目をベタ張りした後、目地部分を隠すように二層目を張ります。妻部には桧材を磨いた破風板(はふいた)を取り付け、棟部分には防水のため割り竹を被せています。



垂木と野地板



防水シートの張り付け



屋根材の張付け



棟の割り竹取り付け

【壁部分の造作】

腰板が一番目立つ場所ですので桧材でノタ(皮部分)が無く、節の少ないものを使用しました。ノタの無い桧の板はホームセンターでは見つからず、知り合いの材木屋でプレーナーのかけていないものを入手しました。

街中で加工する場合は、木材のプレーナーかけは大きな音が出て埃が飛び散るので、出来ればプレーナーかけが済んでいる材を入手するほうが無難です。

腰板の張り付けは材料を十分に乾かしていても、板幅が縮んできます。まず板を並べて柱間の幅よりも腰板を並べた幅が若干長くなるように加工します。腰板を柱間にアーチ状に並べて一気に押し込み戻りが無いように打ち付けます。(これだけ押し付けても完成後は各目地が1～2ミリ位隙きます。)

壁に使用する釘は美観も考え、真鍮のスクリー釘丸頭を使用します。

窓に飾りに竹格子を大き目の真鍮釘で取り付けて壁部分は完成です。



腰板の貼り付け



窓に竹格子取り付け

【土間部分の造作】

土間には袋詰めの土や肥料も置くので重量に耐えるようにレンガ張り(目地なし)にしています。

写真では奥半分が古いセメントレンガ、手前がサビ(花崗岩)レンガです。



土間の仕上げ

【補強金具】

土間の仕上げ写真にも写り込んでいますが、基礎材と柱は隅金物や山形プレートで補強します。柱の位置ずれ防止にはダボを打ち込んで止めていますが、風による浮き上がり防止を目的の補強です。

垂木と梁はかね折れ金物やひねり金物で補強し、風で軒を持ち上げられないようにします。



補強金具の取り付け

【その他】

外気に直接さらされるので、木材部は完成後クリアーの防腐剤を塗布します。

腰掛を置いて待合い風を演出してみました。



腰掛を置いて待合い風に

用途に応じて棚など取り付けると良いでしょう。

【完成】



〔注意点〕

- ・ 雨の吹き込みを防ぐため、軒先は材の寸法や周辺環境が許す限り長めに計画します。
- ・ 腰板の下側は防腐のため風の抜けが良いように透かせて計画します。
- ・ 物置の外周は雨による土の跳ね上りを防ぐため石を敷くなどして犬走りを設けます。
- ・ 後の補修を考え、接着剤などの使用は控えます。

元のページへ戻るにはブラウザの〔戻る〕ボタンをご使用ください。